

第48回岡山県がん診療連携協議会議事要旨

1 日時 令和3年12月6日（月） 18:00～19:20

2 形態 web会議

3 出席者 50名

4 あいさつ

○開会の挨拶があった。

5 報告事項

(1) 岡山県

○今年度から実施することとなった小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について報告があった。今年度の事業計画として、がん・生殖医療部会長に依頼して妊孕性に関する研修会の開催を予定している。今年度については岡山県がん診療連携推進病院の4施設での実施を計画しており、日程等詳細が決まり次第案内するので院内での周知をお願いしたい。

・本事業を利用している人はいるのかと質問があった。

→県より回答があった。現在申請が何件か来ている状況である。まだ本事業について十分に周知できていない部分があると思うので、今年度と来年度でさらに周知を進めていく予定である。

(2) 事務局・岡山大学病院

○令和3年度各拠点病院から情報提供があった研修会・講演会について報告があった。引き続き、今後も情報提供いただきたいと依頼があった。

○岡山県がん診療連携協議会HP閲覧統計（R3年度）について報告があった。

・閲覧数については、例年同様「セミナー・講習会（医療関係）」が最も多く、「がん拠点病院とは」「地域連携パス」と続く。上位にくる項目に変化はないが、この4カ月の傾向として、「セミナー・講習会（一般向け）」や「患者会・がんサロン」等情報が更新されたページの閲覧数が増加している。

(3) 作業部会等

① 地域連携パス部会

○令和3年度岡山県統一版がん診療連携パスの算定実績（R3.8～R3.10集計分）について報告があった。この期間において前年と比較したところ、乳癌は減少したものの大腸癌が大幅に伸びたため、トータルで見ると16件の伸びとなっている。日々のご協力に感謝するとともに、引き続きよろしくお願いしたい。

・岡山県統一版の5大がんの地域連携パス診療手帳を更新する件について、「肺がん」の更新を進めているところであり、現在、各施設に素案を送ってご意見を伺っているところである。記載欄の大きさ、実際にどのような方が利用されるのかといった運用面についてなどすでに何件かご意見をいただいているが、ぜひ皆様からご意見を賜りたい。今後、皆様からいただいたご意見を基に最終案を作成し、再度各施設に送ってご確認いただき、今年度中には完成させる予定である。

② がん相談支援部会

○9月13日にweb開催された第46回がん相談支援実務者会議について報告があった。

・9月のがん征圧月間について、各施設のがん相談支援センターにパネル展示を実施した。医療機関内での展示は予定通りできたが、コロナの拡大時期と重なった影響で一部の図書館で連携展示が先送りとなった。延期になった施設も今年度中には終えられそうな見込みである。岡山県立図書館と瀬戸内市立図書館ではがん相談支援センターのPR活動もさせていただく予定であったが延期となった。

・がん相談員研修について、今年度は3回の開催を計画しており、第1回は7月12日に実施済、第2回は11月20日に実施済、第3回を来年2～3月頃に計画している。

・PDC Aサイクルについて、がん相談部会は今年が2クール目における3年目の相互チェックの年で、オンラインを利用して実施している。多くの施設がすでに実施済で、残る施設も12月中には終えられる見込みである。そして、来年1月31日開催の実務者会議で報告し合う予定である。相互評価実施時には病院長やがん相談支援センター長にご同席いただいたことにこの場を借りてお礼を申し上げたい。この相互評価は他施設との比較ではなく、自施設を評価してもらったり、意見交換をすることで取り組みを共有したりするのが目的であると考えている。

・グループワークは「オンラインでのがんサロンの進め方について」と「就労支援の取組状況について」という2つのテーマについて行った。

○11月26日にweb開催された第17回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会について報告があった。

・資料は国指定のがん診療連携拠点病院等(全451施設)を対象に「第4期がん対策推進基本計画策定および次期整備指針策定のための提案に向けて」実施されたアンケート結果である。本資料は全体での結果報告であり、都道府県ごとの結果は今後フィードバックしていただけるとのことである。尚、今後の整備指針や基本計画に向けた提言をまとめるにあたってWGが設置され、毎月1回開催する予定である。そして来年3月には提言書をまとめ、親会議を通して厚生労働省に提出する予定である。

・がんと診断されて間もない人への情報資料作成WGより、資料(冊子)がほぼ完成したとの報告があった。がんの告知直後～初回治療開始までの間に医師(医療者)から手渡されることを想定して作成しており、伝えたいけれど十分に伝えられなかった情報を補完できる内容となっている。来年2月頃ホームページに公開、3月中旬から冊子の発注を受け、5月半ばに納品予定であり、ぜひ利用していただきたい。

・厚労科研の研究への参加をお願いしたいとの依頼があった。本冊子の活用効果に関する調査で、医師個人を対象とした調査とがん相談支援センターを対象とした調査を行う予定とのことであった。可能であればご協力をお願いしたい。

③ 緩和ケア部会

○9月6日にweb開催された第27回緩和ケア実務者会議について報告があった。岡山県から8月5日付けで、緩和ケア研修会の現地での開催が困難な場合はすべてをオンラインで開催できるという連絡が来ていたが、岡山県内でオンライン開催した施設はない。全国的にみると何件かはオンラインで開催したようだが、技術的にかなり難しく運営が大変だったようである。資料4-2に示す通り、岡山県内では各施設がコロナの流行の合間を見て会場で開催しているというのが実情である。ただ、参加者を院内限定とする施設が多いため、今後もこの傾向が続くようなら拠点病院以外の病院で研修を受けている医師が受講できないという困った状況になる。来年あたりから、もう少し参加者の幅を広げていけたら良いと思う。

→拠点病院以外の医師が受講できないという点について、岡山県医師会主催の緩和ケア研修会でサポートしていると意見があった。今年度は12月19日に開催を予定しており、参加者は少ないものの岡山協立病院、水島中央病院等拠点以外の病院からの申込みもきている。

→オンライン開催の指針が示されてはいるが、12月3日に行われた国のがん対策推進協議会でも議題となっており、オンライン開催はやむを得ないというところはあるが実効性についてもう一度見直した方が良いのではないかという意見が出ていた。

○日本緩和医療学会が行っている2021年度緩和ケアチーム登録(2020年度チーム活動)について報告があった。全国版、岡山県版、そして自施設のデータを比較して、自施設のチームの特徴を探りながらPDC Aについて活用していただきたい。

④ がん看護部会

○11月26日にweb開催された第58回がん看護部会について報告があった。10月16日に開催したオンラインセミナーについて振り返りを行った。「高齢がん患者に寄り添う意思決定支援」をテーマに松江市立病院の老人看護専門看護師に講演を依頼し、第2部では事例を用いた検討会を行った。オンライン開催も良いが、対面で開催することの意味(価値)を問う意見が出された。コロナ禍でオンラインを使うケースが増えたとはいえ、主催者側が思っている以上にハードルが高いという意見も出され、来年度はハイブリッド形式、あるいはサテライト形式での開催も検討していき

い。また、がん看護の講義スライドのブラッシュアップについて、必要な部分には音声をつけて各施設に配布するなど知識の均てん化にも取り組んでいきたいと思っている。

⑤ 研修教育部会

○1月8日にweb開催された第21回研修教育部会、及び2021年度オンライン研修会開催について報告があった。今年度の研修会開催について意見交換を行い、来年2月2日(水)19:00~20:00リモートで開催することとなった。テーマは「化学療法における連携を考える」とし、まず拠点病院側として岡山大学病院の久保寿夫医師が講演し、続いて地域の病院側として日本原病院の森隆文医師に講演を行ってもらい、その後ディスカッションを行う。ディスカッションの材料として、岡山県内の医療機関・介護施設等に事前にアンケート調査を行うことが決定し、すでに拠点病院にはアナウンスしたところである。アンケート回答、及びご参加をぜひお願いしたい。今回は、多くの施設に参加してもらうために、希望する施設には岡山県がん診療連携協議会会長印を押した修了証書の発行、及び会ホームページに施設名の掲載も行うこととした。

→この点について12月3日に行われた国のがん対策推進協議会において、議題として取り上げられている。拠点病院内での多職種連携は進んできているが、拠点病院以外での多職種連携においては解決しなければならない問題があり、議論されていた。第4期の指針にはこの点の対策についても盛り込まれる模様である。

⑥ がん登録部会

報告事項なし(11月15日に部会を予定していたが、議題がなかったため未開催)

○国立がん研究センターからの報告によると、右肩上がりだった新規がん患者が2020年度初めて減少した。詳細は不詳だが、5大がんすべてで減少している。進行期別でみると早期がんが著しく減少していることから、来年度以降1ステージずつ症状が進んだ患者が病院を訪れるケースが増加すると思われるのでご報告させていただく。

→コロナ禍においてがん検診の受診控えが起こっており、中でも高齢者に多いがん種の受診率が下がっているという報告もある。来年度以降、症状が進行した患者が増えるとなるとその対策も必要になるかと思う。尚、検診受診率を上げるのは拠点病院というよりは岡山県、岡山市が対策を考えていくのではないかと考えている。

⑦ がん薬剤師部会

○1月24日にweb開催された令和3年度第2回がん薬剤師専門部会について報告があった。コロナの影響で延期していた第3回研修会を7月31日に初めてwebで開催した。アンケートによると受講者には好評であったが、演者からはコミュニケーションが取りにくい、反応が感じられにくかったという意見もあった。今後研修会をwebのみとするかどうかについては意見が分かれており、今後のコロナの状況を見ながら検討していきたい。第4回研修会は来年3月末頃web開催する計画である。部会の今後について、保険調剤薬局との連携、一般市民への啓蒙活動、部会員を対象としたブラッシュアップ講演会の開催等を考えている。また、研修会に使うスライドが古くなっていたり、5大がんのガイドラインが改訂されていたりするので、適宜修正を行っていく予定である。

⑧ 歯科部会

○岡山県歯科医師会と多職種連携(医科歯科連携)に関わる今後の活動について協議を行った。来年3月13日に岡山県と岡山県歯科医師会主催で研修会を開催予定、2月19日には岡山県・岡山市歯科医師会主催で開業歯科医向けの研修会を開催予定である。尚、12月5日には中国四国がんプロ歯科口腔外科インテンシブコースで、今回は大学病院における指導的な立場にある連携に関するシンポジウムを行った。病診連携(拠点病院と開業歯科医)については、岡山県歯科医師会公衆衛生部が担当して今後充実を図っていくこととなった。当面の対応としては「かかりつけ歯科医」に相談していただくよう案内することとした。医科歯科連携については医科と歯科で内容にずれがある場合があるのでそのあたりを整理していく必要があるという意見も寄せられている。

→県歯科医師会としては、がん診療連携拠点病院と直接つながりを作るというより、地区歯科医師会と地区の拠点病院がつながる方が具体的かと個人的には考えている。岡山県医師会からもご教示いただきたいというのが現状のため今後もよろしくお願ひしたい。

⑨ がんゲノム医療部会

○部会委員推薦についての依頼があった。ゲノム医療に興味のある方なら職種は問わないのでぜひ手を上げていただきたい。第4期の指針ではゲノム医療の推進だけでなく地域への広報を担う人材の確保も上がってくるかと思われる。本部会については各施設から最低1名参加というわけではなくて、まずは可能な施設からご参加いただきたい。

⑩ がん・生殖医療部会

○現在各拠点病院に依頼して妊孕性温存に関する相談件数等の基礎データを集めるアンケートを実施中と報告があった。

・県から依頼を受けている研修会について、推進病院4施設には対面で行うが、周辺の施設も受講できるようにハイブリッド形式で行ってほしいと要望されており、技術的にどうするか考えているところである。

・従来使用している妊孕性温存に関するパンフレットについて、県の事業の助成金に関する内容を入れて改訂してほしいと県から要望が出ている。こちらも現在準備中で、今年度中には切り替えていく予定である。

・来年2月27日(日)に「小児・AYA世代のがん患者の将来の選択肢を広げるために今できること」をテーマにしたオンライン講演会を開催予定である。詳細が決まり次第お知らせするので広報をお願いしたい。

(4) 地域がん診療連携拠点病院・診療病院・推進病院

○12月10日(金)オンラインで開催する倉敷中央病院健康講座について広報があった。

(5) その他

○12月3日に行われた第77回がん対策推進協議会について報告があった。2021年度中に第3期中間評価が行われ(報告書公表済)、現在第4期に向けた基本計画策定の議論が行われており、2022年度(2023年3月)には第4期がん対策推進基本計画が閣議決定される予定である。以下の問題点が指摘されている。

・がんの診断時から必要な支援が受けられるということが十分に周知されていないので、相談支援センターの更なる周知が必要である。

・ゲノム医療について、体制整備については一定の評価はできるが、一般への普及啓発が不十分であるため一層の取組が必要である。

・拠点病院内ではチーム医療の体制が整備されてきたが、拠点病院以外、あるいは拠点病院間でのチーム医療の推進についてまだ問題があるので対策が必要である。

・残された機能を最大限に生かすという観点からリハビリテーションも課題に上がっている。

・希少がん対策については、まだ患者に十分に情報が届いていない、病院間の連携も不十分という問題があるため、必ず第4期の課題として上がってくると思われる。

・小児がん、AYA世代のがん対策に加えて、次期は高齢者のがん対策について具体的な検討がなされるものと考えている。

・サバイバーシップ支援についても重要な課題と言われている。

○10月27日に行われた第13回がん診療提供体制のあり方に関する検討会について報告があった。本委員会では拠点病院に関する指定要件について議論されている。今後の体制変更で、本検討会の下に、がん診療連携拠点病院等の指定要件に関するWG、がんゲノム医療中核拠点病院等の指定要件に関するWG、小児がん拠点病院等の指定要件に関するWGが同列でつくことになった。ここで問題になっているのはAYA世代が抜けていることで、今後国の方で協議をしてすり合わせをしていくことになると聞いている。11月からがん診療連携拠点病院等の指定要件に関するWGは開始しており、来年7月頃改定した整備指針を発出し、令和5年3月頃改定後の整備指針が指定されるという流れである。

・現在、拠点病院が指定要件、すなわち整備指針を守っていなかった場合のペナルティーが明確でないことが議論となっている。具体的には、ある拠点病院が保険適用外の治療を臨床試験ではなく自費診療で提供していたため、指定が取り消されたという事例についてである。その施設がホームページで料金表を公開していたために発覚した。

6 協議事項

○次年度のがん登録部会部会長選出について相談があった。現在岡山医療センターの医師が部会長を務めているが、来年3月で定年退官となるため、次年度以降の部会長を選出することとなった。現在、協議会には作業部会が10部会があるが、部会長の多くが岡山大学病院で占められているため、当部会長はぜひ他病院の方をお願いしたい。後ほど事務局より案内させていただくので、自薦、他薦を問わずよろしくをお願いしたい。

7 その他

○患者会より、乳がん患者を対象に振り返り調査を行い、その結果について報告書を作成したと報告があった。がん診断を受ける1～2年前から体の不調を感じていた患者がかなり多いことに気づき、17項目のアンケート調査を行った。1500件依頼して600件の回答があり、自由記述では体験談や悩みが多数寄せられた。これらの意見も含めて冊子にまとめたので、医師、あるいは相談支援センターのスタッフにぜひご覧いただけたらと思う。対面で集まれるようになったら皆様に配布したいと思う。

○9月のがん征圧月間の頃はがん検診受診者が減っていたが、それ以降に少々戻ってきたように感じていると報告があった。広報を継続することは重要であると思う。

8 次回開催日

次回は、2022年4月4日、又は4月11日開催予定。

開催日が近くなったら日程調整を行う。

(対面の場合は岡山大学病院 大会議室、コロナ収束状況次第でweb開催とする)